



2024年 大博覧会後の鑑賞会

舞台劇

クモばんばと
ぎんのくつつた
(劇団うりんこ)

2024年
10月12日(土) 18:00



音楽

オペラ
森は生きている
(オペラシアター
こんにやく座)

2024年
12月5日(木) 18:30



2025年～ これからの鑑賞会

パフォーマンス

不思議ってステキ!!
(OH オフィス)

2025年
3月9日(日) 14:00/18:00
岡山シンフォニーホール イベントホール



人形劇

カモメに飛ぶことを教えた
ドラ猫の物語
(人形劇団 ブーク)



2025年
7月12日(土)・13日(日)
開演時間未定
岡山芸術創造劇場 ハレノワ 中劇場

舞台劇

イノシシと月 (劇団さんぽ)

2025年
9月20日(土) 18:00 西川アイプラザ

音楽

ピトレ弦楽奏団
手ぶくろを買いに
(ふおるく)

2025年 12月6日(土) 14:00/18:00
岡山県天神山文化プラザ

芸能

ふるさとまつり四季彩々
(民族舞踊団荒馬座)

2026年 3月21日(土) 18:00 場所未定



音楽

ルドルフと
イッパイアッテナ
(オペラシアター こんにやく座)

2025年
5月4日(日・祝) 14:00/18:00
岡山芸術創造劇場 ハレノワ 中劇場

8月「子どもと舞台芸術大博覧会」を三者で開催できたこと、12月「森は生きている」をオペラシアターこんにやく座と共催できたこと、また、多くの支援やボランティアの力が頂けたこと等すべてのことが、子どもたちに文化芸術の機会を提供することにつながりました。前身の子ども劇場から55年ずっと灯し続けた文化活動もさまざまな方々の協働で継続していけることを確信し、新しいステージの幕をあげた年となりました。

子どもを取り巻く状況がますます厳しくなるなか、子どもの権利条約31条(休息・余暇・遊び、文化的・芸術的生活への参加)について学び広報しながら子どもたちの文化芸術環境を豊かなものにしていきます。 代表理事 美咲 美佐子

岡山市子どもセンター

子どもたちが舞台芸術や遊び、異年齢の交流など、様々な体験を通して、豊かな子ども時代を過ごせることを願い活動をしています。

随時、会員募集中!

特定非営利活動法人岡山市子どもセンター
〒701-0144 岡山市北区久米348番地
Tel 086-242-1810 Fax 086-242-1830
e-mail: info@kodomo-npo.jp

活動の様子は

岡山市子どもセンター 検索

*岡山市協働のまちづくり条例「市民協働推進モデル事業」の実施団体です。
*子どもの虐待を防止する「オレンジリボン運動」の支援団体です。

子どもセンターのあゆみ

1969年10月 岡山市子ども劇場発足
2001年4月 NPO法人岡山市子どもセンター設立

受賞歴

2009年 地方自治振興への貢献(岡山市)
2015年 岡山市くらしやすい福祉のまちづくり賞(岡山市)
2017年 第1回おかやま協働のまちづくり賞(岡山市) キッズフェスティバルで入賞
2021年 社会教育振興への功績で表彰(岡山県教育委員会)
2022年 第7回おかやま協働のまちづくり賞(岡山市) 舞台芸術を通じた子どもの豊かな育ち支援事業で入賞

A. あそぼう D. どんどん O. おおきくならう。そして、ひろげよう!

あどねっと

子どもと舞台芸術大博覧会 2024 in OKAYAMA

8月1日(木)～4日(日)
岡山芸術創造劇場 ハレノワ



暑い夏のアットという間の4日間でした。舞台鑑賞を中心にハレノワが全館子どもたち、大人たちの「遊び」の場になりました。「芸術」と言うと自分の対面にあるような気もしなくはないですが「遊び」と言うと自分の傍らにあるような気がしませんか。何を目的とするかについては両者に幾分かの違いがあるかもしれませんが、「創造活動」という意味では共通です。安全で安心して仲間がいて自発性を持って遊べる場、意外とあるようではないです。しかもそれが開かれた公共の場であることはさらに稀なことで、非常に恵まれた文化環境だと感じます。文化とは、地域の共通体験と言い換えることもできます。体験には場が必要です。今年、遊び足りなかった人もいらっしやることでしょ。2025年も新たな企画を継続できるような方向で話が持ち上がっています。ご参加はもちろん、一緒に作っていく仲間も待っています。来年ももう少し一緒に遊びましょう。



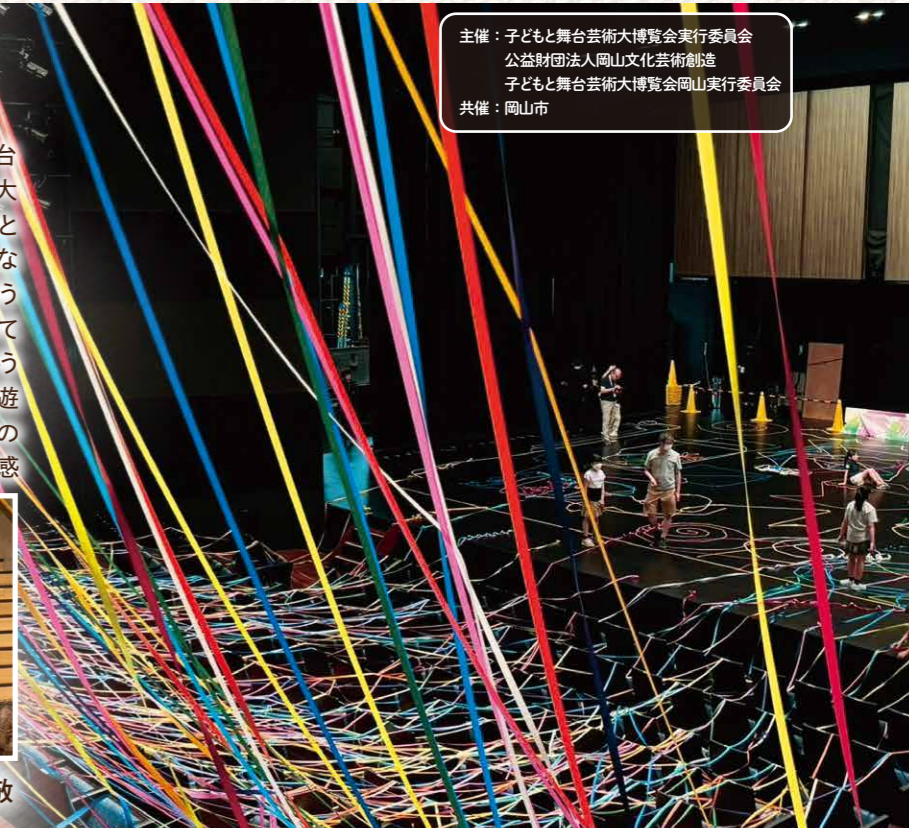
岡山実行委員長 杉本克敬

2024年12月発行
発行/NPO法人
岡山市子どもセンター

51号



主催：子どもと舞台芸術大博覧会実行委員会
公益財団法人岡山文化芸術創造
子どもと舞台芸術大博覧会岡山実行委員会
共催：岡山市



常に劇場は、誰もが集える「広場」であってほしいと思っていますが、その願いが「大博覧会」で実現しました。子どもたちによる会場装飾や大劇場の舞台上でのディスコ・・・劇場のあらゆるところが「遊び場」になり一日中子どもたちの歓声が聞こえた幸せな夏でした。これからは、この広場を続けることがハレノワの大事な使命と確信しました。

岡山芸術創造劇場
劇場長・プロデューサー
渡辺 弘



今年の夏、ハレノワではたくさん子ども達で大賑わいな日々でした。ハレノワ開館以来初めてとなるすべての施設を使用した全館利用は、劇場としても挑戦でした。日頃は、ただの大きな窓がマスキングテープで素敵にデザインされたり、ホワイエとしている空間が子ども達の遊び場やパフォーマンス会場が生まれたり、「大博覧会」がハレノワに残してくれたものは新たな劇場の可能性の広がりでした。ハレノワの担当者は、若手スタッフを中心とした布陣で、大博覧会に関わるスタッフ・ボランティアさんの愛にあふれた子ども達との向き合い方にとっても良い刺激を受けたと思います。皆さんの子ども達を劇場へ迎え入れる時の笑顔から、大博覧会を支える「人」と「人」とのつながりの大事さを教えて頂きました。大博覧会で生まれたつながりを劇場の宝として今後の事業に活かしていきたいです。
岡山芸術創造劇場 事業グループ 制作・学芸チーフ 加賀田 浩二



Instagram



ホームページ



Facebook